

----- (はじまり) -----

タケシ「アスカさん！いまって、ペットブームですよ。実は、僕もアスカさんのように犬を飼おうと思ってるんですよ」

アスカ「えっ！あなたの賃貸マンションって、ペット可だったの？」

タケシ「そうじゃないんで、引越ししようかと思ってるんですよ」

アスカ「ふーん。でも、私も室内犬を飼っているけど、ペット可の物件って意外に少なかったわよ」

タケシ「それがですね。ペット可マンションって最近、増えてきているらしいんですよ。これ見てくださいよ。首都圏のデータなんですけど、一番目の数値が全戸数で、次の数値がペット可の戸数。最後はその割合です」

2003年 83166 39005 46.9%

2004年 85435 47673 55.8%

タケシ「どうです？全体戸数の伸びは前年比で3%弱だけど、ペット可の戸数は前年比で22%アップでしょ。割合がすごく増えてますよ」

アスカ「ふーん。こういう物件って、ブームによって増えたり減ったりするんでしょうけど、ペット可のマンションがオーナーの気まぐれで偶然に増えちゃったということはないだろうから、増えてはいるんでしょうね...」

タケシ「何か不満そうですね。つまり、増加が偶然じゃなくって、統計的にも増加が確かなことを示せばいいんですよ」

アスカ「あら、やるじゃない。さすが、マーケティング部ね。じゃあ、練習のつもりで統計的に解いてみてよ」

タケシ「バカにしないでください。.....で、どうするんですか？」

\*

アスカ「...ったく。説明してあげるわよ。ある年の調査で、標本中46.9%がペット可だった。別の年の調査でも同じように調査して、標本中55.8%がペット可だったとすると、その比率(パーセント)の変化が偶然では起きないことを統計的に示せばいいわけ」

タケシ「例の有意差って、やつですよな」

アスカ「そうそう。調査結果が、偶然に46.9%から55.8%に変わったとは言えないと統計的に証明できればいいわけだから、今回は母比率の差の検定で調べてみればいいんじゃない。電卓で計算すると...」

アスカ「検定統計量は26.1ね。有意水準5%の統計量は1.96だから、余裕で有意差が出てる。統計的にも増えていると結論付けていいわね」

タケシ「...。26.1？1.96？」

アスカ「ええっと、つ・ま・り、計算結果の26.1は有意水準5%の1.96よりも大きいから、このような割合の変化が起こる確率は5%以下ってこと。実際に計算してもいいけど、正確な確率値は限りなく0%になるわ」

タケシ「よかった...。やっぱりペット可の物件って増えているんだ。というわけで、僕の引越し先を探すのは簡単そうですね」

アスカ「よかった...って、少しは仕事の勉強したらどう？...でも、これらの物件って、小型犬はOKだけど大型犬がNGのところ多いみたいね。犬の大きさによってもペット可の増加率に違いがあるかも」

タケシ「ええっ！...。もう、ラブラドルに決めちゃったんですけど...(汗)」

----- (つづく) -----